

SR-M20AP1 変更内容一覧

□機能追加

No.	項目	内容
1	IEEE802.11n規格に準拠	IEEE802.11n規格に準拠しました。従来の無線LAN規格と比較して有線LAN(100BASE-TX)と変わらない高速なデータ通信が可能です。
2	認証自動切替機能	RADIUSサーバへの通信障害時に通信障害中のRADIUSサーバを利用しない認証方式に自動的に切り替える機能をサポートします。通常、RADIUSサーバの障害が発生すると、無線LAN端末は認証できず無線LAN接続ができなくなりますが、本機能により、RADIUSサーバ障害時でも無線LAN通信が可能となります。
3	WEBユーザインタフェース	WEB機能に、かんたん設定および装置の基本情報の設定/操作/表示/保守メニューを提供します。
4	無線LAN管理機能	無線LAN管理機能に次の機能を追加しました。 - チャンネル自動調整機能 管理無線LANアクセスポイントの無線LANモジュールに対して、最適な空きチャンネルまたは無線受信強度が比較的弱いチャンネルを自動的に割り当てます。

□修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V01.01	本装置がDHCPクライアントとして動作する環境において、サーバからのDHCP-ACKメッセージを受信するとGratuitous ARP を2度送信する。
2	V01.01	本装置がDHCPクライアントとして動作する環境において、電源投入時の時刻情報自動設定が正常に動作しないことがある。
3	V01.01	SR-M20AP1で認証機能を有効にし、認証端末がローミングにより移動した場合、SR-M20AP1が次のコードで再起動する場合がある。 down code [00000080:00000001]
4	V01.01	無線LAN管理機能を使って複数の無線アクセスポイントグループ監視中に、本装置を経由する通信が一時的に停止することがある。停止時間は30秒から240秒の範囲となる。
5	V01.01	wlan wep type設定コマンドにて、static を指定し、さらに不要な後続パラメータを指定してコマンド実行またはTAB補完を実施した場合にエラーメッセージが出力されない。
6	V01.01	有線(Ethernet)ポートがリンクダウン状態で定義反映を実施すると、lanインタフェースが利用可能状態(RUNNING)にならない。
7	V01.01	lan設定にて、装置内に未設定のvlan設定情報をbind設定していると、装置内で資源解放漏れが発生することがある。
8	V01.01	wlanを閉塞し、wlanの定義変更を実施すると wlanとして不要なlinkUp/linkDown トラップが通知される。
9	V01.01	lanインタフェースの link up/downに関するシステムログ(syslog)およびトラップを有効にする。
10	V01.01	lanインタフェースの interfaceMIB::OperStatus にて lowerlayer down が通知される。
11	V01.01	本装置に接続中の無線認証端末が logout/leave/disconnectの一連の操作を実行した時、本装置内のarpテーブルから無線認証端末のエントリが消えない。
12	V01.01	vlan forward設定コマンドで設定した静的テーブルが、動的学習テーブルや認証割り当てテーブルへ属性が変更される。このため、静的に登録した端末情報が削除されることがある。
13	V01.01	vlan forward 設定を削除(delete)後にcommitすると、静的テーブルだけでなく、動的学習テーブル及び認証端末テーブルも含めてMAC学習テーブルが削除されてしまう。
14	V01.01	無線LANから不正なフレームを大量に受信し続けると、装置がハングアップしたり再起動することがある。
15	V01.01	ieee80211定義を変更して動的定義反映するとシステムダウンする場合がある。
16	V01.01	無線LANチャンネルをANYにした場合、空きチャンネルが存在する場合でも、他無線LANアクセスポイントが存在するチャンネルを運用チャンネルとして選択する場合がある。
17	V01.01	無線LANチャンネルANY時の起動時スキャンで、チャンネル遷移中に受信したビーコンもしくはプローブ応答の受信チャンネルを正しく認識しない場合がある。
18	V01.01	lanおよびether定義がない時、装置起動しない場合がある。
19	V01.01	WPA/WPA2(-PSK)設定時に端末接続後、show wlan statusコマンド表示内の「wep send」の値が変化する。
20	V01.01	無線LAN定義を変更してcommitすると、装置がハングアップ状態になる場合がある。
21	V01.01	DHCPクライアント機能使用時に割り当てられたIPアドレスでtelnet接続し、commitを行うとセッションが切断される。
22	V01.01	無線LAN管理運用中にシステムダウンが発生し得る。
23	V01.01	コマンドによる無線LAN接続端末(STA)切断エラー時、常に「IEEE802.1X is not running～」のメッセージ表示となる。